

# 令和7(2025)年度 学力向上検証委員会のまとめ

## 1 目的

とちぎ学力向上推進事業(とちぎっ子学力アッププロジェクト)を検証し、今後の学力向上に関わる施策等について協議することにより、県教育委員会が実施する学力向上対策の改善に資する。

## 2 学力向上検証委員

11名 (大学教授、県小学校長会代表、県中学校長会代表、県高等学校長会代表、県小学校教育研究会代表、県中学校教育研究会代表、市教育長部会代表、町教育長部会代表、県PTA連合会代表、総合教育センター代表、教育事務所長会代表)

## 3 期日及び実施内容

### ・第1回

期日：令和7(2025)年7月7日(月) 13:30~15:30

内容：説明 ①令和7(2025)年度とちぎっ子学力アッププロジェクトの事業概要について  
②令和7(2025)年度とちぎっ子学習状況調査の結果(概要)について

協議 ③CBTを活用した学力定着プログラムの概要等について

①とちぎっ子学力アッププロジェクトに係る今後の取組について

②CBTを活用した学力定着プログラムの推進指標について

### ・第2回

期日：令和7(2025)年9月1日(月) 13:30~15:30

内容：説明 ①令和7年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)について

②「とちまる学力向上プログラム※」に係る推進指標について

※CBTを活用した学力定着プログラムの正式名称

協議 ①市町間の学力差の解消に向けて

②検証改善サイクルにおける「実践」段階の取組の充実に向けて

### ・第3回

期日：令和8(2026)年2月2日(月) 13:30~15:30

内容：説明 ①令和7(2025)年度とちぎっ子学力アッププロジェクトの実施状況について

②「CBTとちまるチェック」第1回事前検証の結果について

協議 「とちぎ学力向上推進事業(とちぎっ子学力アッププロジェクト)12年間の取組のまとめ」について

## 4 本年度の検証委員会について

「とちぎっ子学力アッププロジェクト」が、最終年度を迎えるに当たり、本年度の委員会では、プロジェクトに係るこれまでの取組の成果や課題等について検証を行った。第2回検証委員会では、学力向上コーディネーターから、各学校のプロジェクトへの取組状況について報告を受けた。

委員からは、管理職がリーダーシップを発揮し、学力向上に向けて校内支援体制の充実を図ることや、人的支援の充実が必要であること、家庭と連携した取組の充実を図ること、いわゆる非認知能力だけでなく認知能力を重視する必要があること等の意見が出された。

また、次年度からCBT(Computer Based Testing:ICT端末を活用して実施するテスト)を活用して行う「とちまる学力向上プログラム」の円滑な実施に向けて、推進指標や実施内容、各学校における運用等について協議を行った。

さらに、「とちぎっ子学力アッププロジェクト」の成果と課題を総括し、次年度以降の本県の学力向上の施策や、各学校における学力向上の取組の充実に向けて、「とちぎ学力向上推進事業(とちぎっ子学力アッププロジェクト)-平成26年(2014)年度~令和7(2025)年度-12年間の取組のまとめ」を作成した。

## 5 委員長の総括

本年度の委員会では、令和7(2025)年度の取組に加え、12年間のプロジェクトの成果と課題について検証を行った。協議では、各委員から、県教委と市町教委、学校、家庭が連携して組織的に学力向上に取り組むことや、学力向上コーディネーターと学力向上推進リーダーを重点的に派遣・配置し、学校を支援する好事例を県全体に広げていくことが重要である等の意見をいただいた。

今後は、「とちぎっ子学力アッププロジェクト」の総括を踏まえ、本県の児童生徒の資質・能力の育成に向けて、CBTを活用した新たな取組の検証及び改善に取り組むとともに、派遣・配置事業や各種研修の更なる充実を図ることにより、各学校の組織的な取組や授業改善を力強く推進して行ってほしい。